



川崎市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



川崎市職員 脱炭素・SDGs 自主行動宣言

■ 宣言

川崎市は2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年度までに市域及び市役所の温室効果ガスの▲50%削減（2013年度比）を目指し取組を進めています。

また、川崎市は2030年のSDGs達成に向けて、川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進方針と川崎市総合計画第3期実施計画を統合し、総合計画に掲げる施策・事務事業とSDGs達成に向けた取組を進めています。

私たち川崎市職員は、市民・事業者の模範となるよう、以下の脱炭素及びSDGs推進に資する行動を、自主的かつ積極的に行っていくことを宣言します。

■ 『脱炭素・SDGs』推進に資する職員自主行動項目

SDGs配慮行動

- ① 施策推進にあたり、経済・環境・社会の3側面を意識し、総合的に取組を進めます
- ② 施策推進にあたり、SDGsを意識した情報発信・プロモーションを積極的に行います
- ③ すべての業務が様々なSDGsゴールに相互に関連していることを理解し、積極的に庁内の連携・改善を図ります
- ④ すべての業務が様々なSDGsゴールに相互に関連していることを理解し、積極的に市民・事業者の各主体との協働・連携を進めます
- ⑤ 基本的なSDGs配慮行動として、人権配慮（性別、国籍、障害などへの配慮）や、環境配慮など基本的配慮に努めます

脱炭素配慮行動

- ① 庁内オフィスごみの分別を徹底します
- ② 昼食の食べ残しなど食品ロスを少なくします
- ③ 会議室等の冷暖房温度は適切に設定します
- ④ 使用していない照明やパソコンの電源オフなど積極的に節電します
- ⑤ 会議・打合せ時の資料を原則ペーパレス化する等業務中の紙の使用を控えます
- ⑥ 刊行物は原則電子化します
- ⑦ マイバッグ・マイボトル・マイカトラリーを原則携帯します
- ⑧ 会議等でのペットボトルの使用を原則控えます
- ⑨ 公共交通機関を積極的に利用します
- ⑩ 車両運転時はエコドライブを実践し次世代自動車を積極的に利用します
- ⑪ 環境に配慮された製品・物品を積極的に調達します
- ⑫ イベント開催時には「かわさきイベントエコ化ガイドライン」に基づき環境に配慮します